

【平成 30 年 2 月 パート 2】

＜地域を支える仕組みづくり＞ 地域関係者と地域包括ケアシステムについて話し合いました

2月16日（金曜日）午後1時30分から大崎市社会福祉協議会古川支所主催の「平成29年度第3回古川地域福祉推進委員会」において大崎市民生部社会福祉課地域包括ケア推進室の職員が「大崎市における地域包括ケアシステムについて」という内容で話題提供しました。

当日は、古川地域でサロンや見守り活動等を行っている地域福祉推進委員22名と人口減少や少子高齢化が進んでいる状況で地域福祉推進委員の活動が既に「地域包括ケアシステム」の基盤になっていたことを認識し、新たに活動を増やすのではなく、今ある活動を大切にして地域内での見守りや支え合いをつないでいくことが重要であることを大崎市社会福祉協議会、古川地域福祉推進委員会及び行政で共有しました。



＜医療と介護の連携＞ 大崎市医師会において「在宅医療連絡会」が開催されました

2月19日（月曜日）午後6時30分から大崎市医師会にて、在宅医療連絡会が開催され、メンバーである医師・行政が12名集まり検討を行いました。

大崎市医師会では、平成29年度から試行的に大崎市の在宅医療を推進するために、地域のかかりつけ医がグループを形成し、「主治医・協力医制」を制度化し運用を始めています。

この制度は、24時間365日対応の一人主治医制の負担軽減をすることで在宅療養するご本人、ご家族が安心して医療を受けられる環境をつくるものです。

今後も継続的に話し合いを進めて「病診・診診連携体制」の構築を進めていきます。



＜医療と介護の連携＞ 福祉施設百才館において医師・薬剤師健康講話が開催されました

2月20日（火曜日）三本木地域にある福祉施設百才館にて、大崎市医師会理事 富樫 孝 医師による「糖尿病とかかりつけ医」について、大崎市薬剤師会理事 市ノ渡 真史 薬剤師による「お薬の話」についての講話を行い、地域住民と施設職員の約30名の方が参加しました。

今後も市内の医療・介護の多職種がチームになり、皆さんの身近な地域で出前講座を開催します。自分の地域で話を聞いてみたい等興味のある方は下記までご連絡ください。

（問い合わせ）大崎市在宅医療・介護連携支援センター 0229-25-5376



その他の主な取り組み

＜地域を支える仕組みづくり＞

平成30年2月13日（火曜日）午前10時から三本木地域にある福祉施設百才館の後援会ボランティア部会が実施している「ホッとサロン」にて大崎市民生部社会福祉課地域包括ケア推進室の職員が「地域づくりと健康づくり」について講話をし、ホッとサロンで開催している地域の方が参加できるお茶会等の活動が地域づくりになっており、自身の健康づくりにもなっていることを後援会ボランティア部会11名、福祉施設百才館の職員5名及び志田地域包括支援センター2名と共有しました。

＜地域を支える仕組みづくり＞

平成30年2月17日（土曜日）午後7時から古川高倉地区公民館にて高倉地区の地域づくりを考えるワークショップが開催されました。今回で一区切りになる第3回目は26人の参加者と一緒に高倉地区の課題を解決するための事業をグループで考えました。今後、高倉地区振興協議会と各グループから推薦された方々が集まり、今回のワークショップで出た意見をまとめていきます。

＜地域ケア会議の推進＞

平成30年2月20日（火曜日）午後6時から大崎市役所北会議室にて平成29年度第9回大崎市自立支援型地域ケア会議を開催しました。

＜地域を支える仕組みづくり＞

平成30年2月23日（金曜日）午前10時から古川志田地区公民館にて志田中部地区振興協議会会長及び古川志田中部地区行政区長4名に大崎市で実施している「地域を支える仕組みづくり（生活支援体制整備事業）」について紹介しました。